

27.3.22 日

水路にコイ泳いでます

飫肥城下町 2年半ぶり再開



約2年半ぶりにコイが放流された飫肥の水路。多くの地域住民や観光客らが見入っている

2012年9月に発生したコイヘルペス(KHV)の影響もあり中止していた日南市飫肥の「鯉の遊泳」が21日、約2年半ぶりに再開した。多くの地域住民や観光客が訪れ、水路を優雅に泳ぐ115

匹のニシキゴイを見ながら「城下町にはコイが似合う」「とても華やか」と目を細めていた。水路へのコイの放流は、1983(昭和58)年4月から後町通りで開始。地域住民

らが餌やり、水路清掃など行ってきたが、2012年9月にコイ2匹が死に、翌日には県水産試験場でKHVの陽性反応が確認され、約150匹を回収、焼却処分した。

消毒後は水を流すだけだったため、市民や観光客などから再開を望む声が上がっていた。しかし、13年8月から無電柱化事業が始まり、遊泳場所も工事対象の区間だったことで、再開を保留している状態だった。

ことし2月には工事が終了し、ゴールデンウィーク前に再開する運びとなり、市が50万円、地域連携組織「城下町飫肥まちづくり協議会」が寄付で集めた30万円を提供、市

が一括して福岡県北九州市の業者からコイを購入した。

同日は、放流式を開催。崎田恭平市長やコイの餌やりなどを行う本町商工会や同協議会、地域住民ら約40人が参加。崎田市長ら4人が代表して放流を行った後、延長約200mの水路に次々と体長25〜75cmのコイが放された。

妻と飫肥を訪れた兵庫県たつの市の太田慧一さん(73)は「放流しているコイたちの模様が、城下町の風情に合っている」と笑顔を見せ、同商工会メンバーの平部宜俊さん(58)は「皆さんの要望に応えて再開できてうれしい。多くの観光客に訪れてもらいたい」と話していた。